

<アドバイザー略歴>



稻場雅紀 (特活) アフリカ日本協議会 共同代表／国際保健部門ディレクター

90年代に貧困問題やLGBTの人権などへの取り組みを経て、2002年よりアフリカ日本協議会の国際保健部門ディレクターとしてアフリカのエイズ・保健問題に取り組む。「ミレニアム開発目標」(MDGs)の達成を目指すNGOネットワークの責任者を務めたのち、2017年、「一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク」を設立に参画。「SDGs推進円卓会議」「グローバルヘルス戦略有識者タスクフォース」など政府のSDGsや国際保健分野の政策策定にも参加。共著書に「SDGs 危機の時代の羅針盤」(岩波新書、2020)、「流儀」(生活書院、2008)など。



岸本充生 大阪大学D3センター 教授

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士（経済学）。通商産業省工業技術院資源環境技術総合研究所（2001年から独立行政法人産業技術総合研究所）、東京大学公共政策大学院を経て、2017年から大阪大学データビリティフロンティア機構（2024年からD3センター）教授。2020年4月から新設された社会技術共創研究センター長を兼任。共著に「世界は基準値でできている」講談社ブルーバックス（2025年）、編著に「リスク学事典」丸善出版（2019年）ほか。



武見綾子 東京大学先端科学技術研究センター 准教授

東京大学法学部卒、東京大学法学政治学研究科総合法政専攻修士課程・博士課程修了。博士（法学）。ハーバード大学公衆衛生大学院専門職修士課程修了。米シンクタンク(Center for Global Development)、世界銀行、マッキンゼー＆カンパニーを経て世界保健機関勤務。専門は国際行政学、保健政策（大規模感染症対応を含む）、経済安全保障。